

令和 5 年 4 月 17 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K12562

研究課題名(和文) 鉄道とヘリテージ・ツーリズムに関する日英比較史研究

研究課題名(英文) Historical-Comparative Research on Railway and Heritage Tourism: Japan and Britain Examples

研究代表者

藤井 秀登 (Fujii, Hideto)

明治大学・商学部・専任教授

研究者番号：90308057

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)： 鉄道遺産を活用したヘリテージ・ツーリズムについて、日本と英国で比較した結果、動態保存されている鉄道は、英国のほうが日本よりも質量において勝っていた。特に英国では、ボランティアが保存鉄道の運営に関与しており、観光客だけでなく地域社会においてもその意義が認められていた。確かに日本の鉄道システムの原型は英国から導入されたため、東京駅丸の内駅舎に外観面で関連性がみられる。一方で、日本の廃止された鉄道には、地域における観光資源として動態保存できる可能性が見いだせた。研究課題に対して、観光政策や観光交通政策としてよりも、むしろ関係者による自発的な事業運営が結果的に政策につながっていく点を確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

鉄道を利用したヘリテージ・ツーリズムにおいては、鉄道遺産が場所の自然や文化と時間的、空間的に整合性をもっていることが、観光資源としての価値を高める結果、事業に貢献する点を明らかにした。その際、理論的な分析枠組みとして、クロノトポス、テーマ環境とテーマ空間が有用と判断した。クロノトポスとは実在対象を統一された時間と空間として認識する概念である。テーマ環境とは、観光アトラクションの物的、人的な環境を指し、テーマ空間とは、テーマ化することで生み出される象徴的な意味を介して特徴づけられた場所の概念である。これらに留意しながら、場所における鉄道遺産の価値づけを実施すると、地域活性化にもつながる。

研究成果の概要(英文)： We compare the Japanese railway heritage with that of the UK regarding tourism. The UK provides an advantage over Japan in the number and service level of retired power vehicles and cars preserved in working conditions. Also, volunteers have engaged in the UK's heritage railways' management and operation tasks. This condition leads to the fact that tourists and local people find them worth keeping. As the UK brought the railway system to Japan, they are similar in the system and buildings. For example, the exterior design of the Marunouchi building of Tokyo Station resembles that of the UK buildings in those days. On the other hand, there is the possibility of reusing the discontinued railways in Japan as regional tourism resources or working-conditioned preservations. The management or operation by volunteers plays a vital role in activating heritage tourism through railways rather than tourism policy or tourism transport policy at the outset.

研究分野：観光学 交通論

キーワード：ヘリテージ・ツーリズム 保存鉄道 クロノトポス テーマ環境 テーマ空間 日本の鉄道遺産 英国の鉄道遺産

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

交通部門、なかでも鉄道部門では、20世紀末に英国や日本で規制緩和が実施され、鉄道輸送市場における生産性が、より重視されるようになった。規制緩和は実際に鉄道運賃体系の多様化を促し、観光者は予算制約下における観光目的にあわせた交通サービス商品の選択をできるようになった。英国や日本では、大都市や都市間の移動において鉄道の利便性が高まったからである。一方で、需要が少ない地域や地帯では、鉄道による交通サービスの供給が劣化する事態も生じた。こうした状況下で、鉄道が観光者の目的となる観光交通をみると、価格という一元的な指標とは異なる別の指標が観光者による鉄道利用に影響を及ぼしていた。換言すると、鉄道サービス商品が提示する価格に加えて、移動に付随する観光的な価値が観光者の鉄道利用を生み出す点を、規制緩和の議論だけでは網羅できていなかった。そこで、文化遺産や自然遺産という観光的な価値を活かしたツーリズム、すなわちヘリテージ・ツーリズムの視点から観光鉄道を考察する必要があると判断し、鉄道とヘリテージ・ツーリズムにおける日英比較史研究を開始した。

2. 研究の目的

鉄道遺産が、一部の観光者における観光目的になっていることは知られている。スペシャル・インタレスト・ツーリズムとしての観光鉄道市場である。そこで、鉄道遺産を活用したヘリテージ・ツーリズムが日本と英国でそれぞれ、どのような史的展開を経て、構造化されてきているのかを解明することにした。鉄道遺産とは、鉄道、路面電車、駅舎、ターミナル・ホテルや鉄道博物館などのような、技術を組み込んだ輸送手段や乗降場所、あるいは鉄道に関連する建造物のうち、遺産的価値をもつものを意味している。当初、以下の3つの目的を想定した。第1に、英国では、約100ヶ所に鉄道遺産が動態保存されている。これらを統括する団体として鉄道遺産協会（Heritage Railway Association）があり、それらの地域における役割を明らかにすることにした。第2に、日英両国における鉄道遺産を活用したヘリテージ・ツーリズムの事例を通じて、その形成過程と構造を解明することにした。第3に、鉄道遺産を活用したヘリテージ・ツーリズムにおいて、日本よりも先進的に取り組んでいる英国の事例から得られた諸点を基礎にして、日本における鉄道とヘリテージ・ツーリズムにおける今後の展開策を検討することとした。

3. 研究の方法

上述した第2の目的から研究を開始した。その際、鉄道遺産を活用したヘリテージ・ツーリズムの形成過程と構造を明確にするため、地域鉄道とヘリテージ・ツーリズム、鉄道ホテルとヘリテージ・ツーリズム、鉄道保存とヘリテージ・ツーリズムに分けて考察した。研究対象には、順に、路面電車、ターミナル・ホテル、鉄道博物館および相当物を想定した。

第1の地域鉄道とヘリテージ・ツーリズムでは、沿線にある海岸や歴史的建造物などの観光資源と鉄道が一体化している事例を取り扱った（ブラックプール・トラムと広島電鉄など）。第2の鉄道ホテルとヘリテージ・ツーリズムでは、自社で設立したターミナル・ホテルが観光資源化していった事例を取り扱った（セント・パンクラス駅と東京駅に併設されたホテル）。第3の鉄道保存とヘリテージ・ツーリズムでは、かつて使用されていた車両や通路などを収集、保管、展示し、自社の鉄道技術を観光資源化した事例、あるいはそうした方向を検討している事例を取り上げた（ヨーク英国国立鉄道博物館と高輪築堤跡）。

4. 研究成果

上記、研究の方法で分類した3つの観点に基づき、以下で説明していく。

まず、地域鉄道とヘリテージ・ツーリズムである。これを考察する理論的な視座として、鉄道沿線の景観と鉄道サービスの生産要素を設定した。鉄道沿線の景観には、自然景観、田園景観、文化景観、都市景観と建造景観を、鉄道サービスの生産要素には、車両、エンジン、線路・軌間、駅舎、信号機などをそれぞれ設けた。鉄道沿線の景観は、いずれも遺産的価値をもつヘリテージに相当し、鉄道利用を促す役割も果たす。鉄道サービスの生産要素は、遺産的価値をもつ車両や駅舎が特に観光者を魅了するヘリテージになり、その利用を促進する。鉄道沿線の景観と鉄道サービスの生産要素の組み合わせが遺産的価値を強化し、ヘリテージ・ツーリズムの創出になっていく。この考え方を明らかにするため、小説の研究をはじめ、人文科学の研究領域で導入されていたクロノトポスを援用した。クロノトポスとは、主体が客体と出会う特定の場所で起こる具体的な出来事を、あるいは主体が客体という表象された世界において経験する出来事を、時間と空間の統一的認識という理論的な枠組みで把握しながら、主客間で対話していく過程である。ブラックプール・トラムと広島電鉄では、時間が空間化された景観、空間が時間によって意味づけられた景観の両者が、観光者のクロノトポスに働きかけていく。たとえば、被爆電車が原爆ドームと一体化した景観をみることで、観光者は現在に近い過去の臨場感を感じていく。この臨場感を求めて、観光者は当該の鉄道を利用していく。観光者が自身の視知覚を介してヘリテージの意味や価値を創出、受容、対話していく過程と構造がクロノトポスによって得られる。

次に、鉄道ホテルとヘリテージ・ツーリズムである。このテーマでは、鉄道ホテルの建築様式に着目した。英国のセント・パンクラス駅に併設された、ミッドランド・グランド・ホテル（現在のセントパンクラス・ルネッサンス・ホテル・ロンドン）には、教会建築に使用されるゴシック様式が採用されていた。そこには、設計したジョージ・ギルバート・スコットの考えが反映されていた。発注者のミッドランド鉄道は、ロンドンに後発で新規参入した鉄道会社であった。他社との差別化のため、斬新なデザインの駅舎と一体化したホテルの設計を条件に掲げて、コンペを開催した。聖を俗に転用した点で人々の注目を集めると主催者は判断し、スコット案を採用した。教会と見間違える駅舎と一体化したターミナル・ホテルは、遺産的価値を理解する、現代の観光者の鉄道利用にも寄与する点で価値をもつ。対して、東京駅丸の内駅舎は、辰野金吾の設計による。辰野はイギリスに留学し、英国の建築様式に加えて、イタリアなど大陸諸国の建築様式も学んでいた。赤と白に外壁が彩られた左右対称の安定した東京駅丸の内駅舎の造りには、辰野による美術建築という思想が反映されており、その審美性において観光資源にもなっている。

最後に、鉄道保存とヘリテージ・ツーリズムである。遺産的価値をもつ鉄道を収集、保管、展示、教育の対象として活用し、その意義を現代に伝承していく博物館と、そうした段階に至る前の鉄道遺産を取り上げた。最初に、ヨーク英国国立鉄道博物館を考察した。同博物館は世界で最古の公共用輸送に供したストックトン・ダーリントン鉄道の遺産を継承している点で観光資源としての真正性をもつ。同博物館の起源は、ストックトン・ダーリントン鉄道の系譜にある民間鉄道会社が設立した博物館にまで遡れる。世界水準で鉄道遺産を収集しており、時間軸と空間軸において優れた質量を有する鉄道博物館といえる。車両や信号機、保守点検用の工具だけでなく、鉄道に関する資料や書籍も収集、保管している。こうした鉄道遺産の高い質と豊富な数を生かすべく、教育機能が充実している。児童教育、職業教育から大学院教育に至るまで広範な取り組みを実施してきている。大学院教育では、近隣にある英国国立ヨーク大学教養学部歴史学科と連携して、鉄道論研究所を博物館内に設け、鉄道史に関する学術研究と教育を基軸に履修者へ提供している。鉄道遺産を利用したヘリテージ・ツーリズムを入り口にする一方で、鉄道遺産の専門家を養成、輩出している。鉄道遺産の継承者でもある高度職業人や学術研究者を育成している。国として鉄道遺産を重要視していることが同博物館の教育機能を通じて確認できた。また、ヨーク英国国立鉄道博物館には、娯楽の機能もある。館内には、蒸気機関車の転車台（ターンテーブル）を設置し、実際に稼働している。また、館外ではミニチュアの蒸気機関車に乗客を乗せて運行している。実体験を提供することでツーリズムの条件でもある脱日常性を演出している。ヘリテージ・ツーリズムの素材を来訪者へ提供している。次に、日本で最初に鉄道が運行した新橋・横浜駅間のうち、現在の高輪ゲートウェイ駅そばでみつかった高輪築堤跡についてである。これは、高輪海岸に沿って築かれた高輪築堤の一部の跡であり、品川駅改良工事の際に発見された。現在、高輪築堤跡の一部を保存することが決定しているが、残りは解体される予定となっている。このため、鉄道遺産の保全としては、必ずしも万全とはいえない。その遺産的価値を広く人々に伝えるため、ヘリテージ・ツーリズムにおける観光資源としての活用が望まれる。

当初の計画では、英国の鉄道遺産協会へヒアリングし、地域における保存鉄道の役割を解明する予定であった。しかし、メールで担当者と情報交換していると、事務局は各保存鉄道会社の輪番制であること、現在の局長は過去の経緯について情報をもっていないこと、学芸員が存在せず、資料の収集、保管、整理ができていないことが明らかとなった。鉄道遺産協会として横のつながりがある一方で、これは主に運行に関する技術的な情報交換の組織であり、事業の運営については各保存鉄道事業者の裁量に依拠しているとわかった。なお、保存鉄道の運行時期は限定されているが、英国全土に点在しており、観光資源としての役割を果たしていると推察できた。運行距離や保存鉄道設立までの経緯、沿線の文化遺産や自然遺産にも多様性があり、個々の調査が必要なことも判明した。日本では、動態保存されている遺産的価値をもつ鉄道の運行場所は、英国と比べて限定される。また、遺産的価値と観光資源としての価値も十分に情報が発信されていない。英国の事例から学べる点として、鉄道とヘリテージ・ツーリズムにはボランティアが必要であること、沿線地域社会と共存していること、事業者が積極的にツーリズムへ取り組むこと、事業者が鉄道遺産を収集、保管、展示すること、鉄道遺産の教育を含めた啓蒙活動に事業者が取り組むこと、必要に応じて国や地方公共団体が関与すること、こうした点を挙げられる。今回の調査を通じて、英国の鉄道とヘリテージ・ツーリズムには、廃線跡をサイクリング用通路へ転換するなどといった別の展開が行なわれている点も確認できた。詳細は、今後の調査で解明していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 34
2. 論文標題 ヘリテージ・ツーリズムにおけるテーマ空間と行為の動機 - ヨーク英国国立鉄道博物館と観光アトラクションを事例に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 105
2. 論文標題 ヘリテージ・ツーリズムにおける場所の史的構造と経験 - ヨーク英国国立鉄道博物館を事例に -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明大商学論叢	6. 最初と最後の頁 11-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恩田睦	4. 巻 15
2. 論文標題 地域における歴史的遺産の保存運動 - 北海道・丸瀬布丸瀬布地域における森林鉄道機関車「雨宮21号」の事例 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治大学国際日本研究	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恩田睦	4. 巻 45
2. 論文標題 地方自治体による産業遺産の保存・活用 - 丸瀬布森林公園いこいの森造成と「雨宮21号」の動態保存 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 弘前大学経済研究	6. 最初と最後の頁 29-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恩田睦	4. 巻 37
2. 論文標題 富岡市におけるAIデマンド交通の導入と既存交通事業者との共存	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高崎商科大学紀要	6. 最初と最後の頁 201-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恩田睦	4. 巻 61
2. 論文標題 戦間期秩父鉄道の経営と労使関係 - 1932年7月の労働争議を手掛かりに -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明治大学社会科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 17-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恩田睦	4. 巻 66
2. 論文標題 地域における産業遺産の意義 - 赤沢自然休養林と赤沢森林鉄道を活用した地域課題の解決 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉経済論叢	6. 最初と最後の頁 255-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恩田睦	4. 巻 81
2. 論文標題 首都圏の通期輸送対策	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JRガゼット	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideto Fujii	4. 巻 2
2. 論文標題 Creating Heritage Tourism through Chronotopes: Focusing on Hiroshima Electric Railway in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Socialis Series in Social Science	6. 最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 60
2. 論文標題 ハワイアン航空における機内接遇の指針とハワイ文化－日本語対応客室乗務員の視点から－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明治大学社会科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 61-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 104
2. 論文標題 イベントとしてのカーニバルの境界性とヘリテージ・ツーリズム－ブラックプール・ヘリテージ・トラム・ツアーを事例に－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明大商学論叢	6. 最初と最後の頁 37-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 33
2. 論文標題 ヘリテージ・ツーリズムにおける観光資源とクロノトプス－ブラックプール・トラムを事例に－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 老川慶喜	4. 巻 無
2. 論文標題 日本鉄道史のなかの大隈重信	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 陸蒸気を海に通せ!	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恩田睦	4. 巻 99
2. 論文標題 いま学ぶ! 渋沢資本主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エコノミスト	6. 最初と最後の頁 72-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第4号
2. 論文標題 イギリスにおける保存鉄道の制度化とピーチング・レポート ブルーベル鉄道の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 88 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第5号
2. 論文標題 東京駅丸の内駅舎におけるヨーロッパ建築様式の影響と観光対象化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 90 93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第6号
2. 論文標題 観光対象としてのゴシック様式建築とレイルウェイ・ホテル セントパンクラス・ルネッサンス・ホテル・ロンドンを事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 119 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第7号
2. 論文標題 航空会社のリゾート路線と企業経営 ハワイアン航空を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 77 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第8号
2. 論文標題 ハワイアン航空におけるハワイ語の意義 機内誌の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 83 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第9号
2. 論文標題 海浜リゾートにおける路面電車の導入と観光資源化 ブラックプール・トラムを事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 93 97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第10号
2. 論文標題 観光資源としてのモノレールと地域社会 ヴッパータール空中鉄道を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 85 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第11号
2. 論文標題 ホテル、コンベンション施設の立地と交通アクセス ラスベガス・モノレールを事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 84 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第12号
2. 論文標題 観光資源としてのクルーズ客船とプライベート・アイランド ホーランド・アメリカ・ラインを事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 96 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第81巻第1号
2. 論文標題 ウォルト・ディズニー・カンパニーの文化とマス・メディア ディズニー・マジック号の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 84 88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第81巻第2号
2. 論文標題 イギリス国立鉄道博物館の創設と観光資源としての鉄道遺産 ノース・イースタン鉄道の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 68 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第81巻第3号
2. 論文標題 観光交通における文化の意義とグローバリゼーションによるリスク	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 86 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第102巻第1号
2. 論文標題 イギリスにおける保存鉄道の萌芽とヘリテージ・ツーリズム タリスリン鉄道とノース・ヨークシャ・ムーアズ鉄道を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 明大商学論叢	6. 最初と最後の頁 19 - 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第102巻第4号
2. 論文標題 辰野金吾の東京駅丸の内駅舎建築様式と丸の内開発 ヘリテージ・ツーリズムの視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 明大商学論叢	6. 最初と最後の頁 99 - 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井秀登	4. 巻 第80巻第3号
2. 論文標題 観光資源としての保存鉄道とボランティアの協力 タリスリン鉄道を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 78 - 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinobu Oikawa	4. 巻 Vol.33
2. 論文標題 National Rail and Tourism from Russo-Japanese War to the Asia-Pacific War: The Rise and Fall of Business Approach to Rail Management	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japan Review	6. 最初と最後の頁 87-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恩田睦	4. 巻 第8号
2. 論文標題 高度成長期の鉄道と新幹線問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報首都圏史研究	6. 最初と最後の頁 13 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恩田睦	4. 巻 第489号
2. 論文標題 高松市「まちなかループバス」にみる地域公共交通の展開 バス運営主体としての商店街組織の意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 自治総研	6. 最初と最後の頁 24 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Hideto Fujii
2. 発表標題 Chronotopes and Heritage Tourism: Focusing on Hiroshima Electric Railway in Japan
3. 学会等名 6th London-International Conference on Social Sciences & Humanities (ICSSH) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤井秀登
2. 発表標題 ヘリテージ・ツーリズムにおける観光資源とクロノトポス・ブラックプール・トラムを事例にー
3. 学会等名 日本観光研究学会 全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 恩田睦
2. 発表標題 大学生・外国人学生のための渋沢栄一ガイド
3. 学会等名 出版記念オンラインシンポジウム『はじめての渋沢栄一 探求の道しるべ』渋沢研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井秀登
2. 発表標題 ヘリテージ・ツーリズムにおける鉄道の位置づけと展開
3. 学会等名 日本観光研究学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 恩田睦
2. 発表標題 中日高鉄比較 对東南亜各国技術出口の展望
3. 学会等名 日本經濟思想史学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 千住一・老川慶喜編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本經濟評論社	5. 総ページ数 288
3. 書名 帝国日本の観光－政策・鉄道・外地－	

1. 著者名 恩田睦（渋沢研究会編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 126
3. 書名 はじめての渋沢栄一 探求の道しるべ	

1. 著者名 老川慶喜	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本經濟評論社	5. 総ページ数 216
3. 書名 満州国の自動車産業 同和自動車工業の経営史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<https://www.openaccessgovernment.org/railways-in-the-uk-and-japan-heritage-tourism-focus/110070/Impact>
<https://doi.org/10.21820/23987073.2020.8.74>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	老川 慶喜 (Oikawa Yoshinobu) (10168841)	立教大学・名誉教授・名誉教授 (32686)	
研究分担者	恩田 睦 (Onda Mutsumi) (50610466)	明治大学・商学部・専任准教授 (32682)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------